

特集 「札内商店物語」より

札内神社

明治31年、神主の経験のある古田鶴次郎が札幌神社祭神の分霊を持って札内に入植した。

古田は、吉田多三、中島弥五郎、加納佐兵衛らの協力を得て、現在の札内墓地南の高台にほこらを建てて分霊を安置した。
これが札内神社の始まりである。

札内に駐車場ができて、住宅の戸数が増加したことから大正6年、現在の「働く婦人の家」の位置に移された。

当時の札内神社が無願社であったことから、昭和3年内務大臣に神社創立を申請するが、白人神社と距離が近いという理由で却下。

昭和14年やっと無格社と認められ、52年には再び現在地の札内墓地南の高台に移された。

祭神は大国魂神・大己貴神・少彦名神の三神である。

町民文芸

まくべつ

第23号・2007